



UEDA

Women's Junior College

上田女子短期大学附属図書館報

みすず

No.46
2019.12

Ueda Women's Junior College Library News Misuzu

読書でミラー細胞を増やす

総合文化学科教授 宮田 暉朗

“おほよそは枯れてしまへる朝顔のしづかに捧げもつ紺の色”は献本歌集の一で、究極の死生感が爽快です。儒教「小学」の“詩に興り、禮に立ち、樂なる。”は学問の基礎は詩心による澄心で始まり、礼を学び音楽を楽しむと“善美が統一された和”がなり人格が完成すると説き詩情の感性を基礎として重視します。

令和元年の芥川賞、今村夏子氏は大学進学後多読し、バイト体験で書き溜めたアイデアを基に「自分の中にあるものを絞り出して書く。」直木賞の大島真寿美氏は短大卒業後に劇団の脚本と演出を担当、「執筆中に聞こえる声が正しい一行となるかを問いつつ書く。」と述べます。読書と体験を融合させて新たな人生設計に従って解決課題できうる人間は、研ぐ砥石としての「言語感覚」の適否・是非を自らに問えるかを暗示します。

人類破滅の要因は「戦争、細菌、IT、IC、環境破壊、放射能」等ですが、人らしい感性喪失による“人間崩壊現象”こそが怖い。特に幼子や親、誰でもいい等の殺人は令和の幕開けに“自分愛”の過重への警戒警報です。この予防やタブー制御には「快樂原理、金儲け、憎悪連鎖、自分勝手」等による心身の不均衡への対応が問われますので、人の気持ちが変わり時に憐れと感じる惻隠が必要だと思えます。読書や生活で得た喜怒哀楽の情と温かな人らしさの仕立連結剤となりうる言語の使用は重大です。

ヒトは肉体と精神からなります。体が悪いと病院に行きますが人らしい感性や精神向上の養生は二次的です。両者が調和した行動は“セレンディピティ”の働きで思わぬ幸運をも舞い込ませますが、気をセーブして冷静を装い、虚心・無気にして責任を取らず意思さえ他に委ねてしまう負の感性は人間崩壊になりがちです。「生きる力」獲得にはICT活用力は必須ですが闇サイトやニッチの情報収集では“畏れ”や理性も失い協同意識も廃れます。知識と行為を結び、ひっくるめてまとめる包括的な処理力で核心抽出の能力こそ重要で、その潤滑油も感性からです。毛筆は厳正な字形原理と造形感覚を合一させる表現力が必要で、一点一画の方向・角度・長さ、止め払い等の法則性と筆圧に速さを統合させる感覚感触を手とハートに伝えて表現する力が基本です。

幼少期の母親からの月遅れの雑誌。読み聞かせ“ぶんぶく茶釜”の文末「儲けたお金は～やさん元のお寺に返しましたとさ。」ノルマ60冊の中学時代に炬燵で焼き芋をほうばっての英雄や動物文学の機微や生き方の追体験は以後の道標になりました。ノーベル化学賞の吉野彰氏は小学生時「ロウソクの科学」と言う書に出会い化学追究を人生目的に決め、思いがけない発見は必ずあると意識し“直観力”を重視したそうです。

活字のごはんを楽しみ心の眼の養成、温かな人間ならでの感性を羅針盤にして、最後の1秒迄軽く鼻歌が出る生活を以てミラー細胞を増やしたいのですが、本稿での感性の基本的詩心とは「おはよう」と言えることと同義です。災害に見舞われた方々にお見舞い申し上げます。

目次

読書でミラー細胞を増やす
「本」と「私」
本に関わる思い出
私の好きな文豪たちの逸話
本の楽しみ方
読書の楽しみ
読書歴
上田女子短期大学教員が学生にすすめる本
本学教員の新刊著作
図書館講座・図書館企画展
図書館耐震補強工事

CONTENTS

総合文化学科 教授	宮田 暉朗	1
幼児教育学科 専任講師	赤塚 正一	2
幼児教育学科 専任講師	吉澤 俊	3
幼児教育学科 1年	金子 リサ	4
幼児教育学科 2年	高橋ひかる	4
総合文化学科 1年	立川 京佳	5
総合文化学科 2年	高橋 遥月	5
幼児教育学科 専任講師	堤 裕美	6
総合文化学科 専任講師	斎藤 直人	6
		6
		7
		8

「本」と「私」

幼児教育学科 専任講師 赤塚 正一

子どもの頃、私は読書にはあまり興味がなかった(今でも本質的には変わっていないと感じるが)。いつも読書感想文を書かされたり、図書館の本を借りた数のグラフが教室(だったと記憶している)に張り出されたり、何かと強いられているように感じていたことも影響していたのかもしれない(いろいろ言っても結局、自己責任であるが)。その結果、このような原稿を依頼されると頭を抱えてしまう大人になってしまった。

私が主体的に本を読みたい(もちろん、読まなければならないという状況もあったが)、と思うようになったのは、特別支援教育を自分の生涯の仕事にしよう、と心に決めた時からである。それ以来、専門書を読み始め、商業雑誌もできるだけ多くのものを定期購読するようにした。また、少しずつ関連領域の本にまで手を伸ばすようになった。そして、次第に読んでいただけでは何となくつまらない、自分の文章を雑誌に載せたい、と思うようになった。運よく、初めて投稿した実践レポートが商業雑誌に掲載された。小さな感動を覚えた。

そんなことを繰り返しているうちに、研究論文を書いてみたくなった。時すでに50歳になろうとしていたが、論文を書くことに挑戦することにした。論文を書く場合、本来ならば、まずは研究テーマに関する先行研究(論文)を徹底的に(CiNii等で)リサーチするのが定石だと考える。だが、研究歴のない私にとっては、まず読みやすい専門書を探し当て研究テーマに関する現況を把握することも、それなりに役立つことであった。それからその専門書に挙げられている論文を読んでいくことをした。そうこうして、自分の実践研究論文が日本特殊教育学会の学術誌に初めて掲載され、別刷が50部送られてきたときの感激は今も忘れない。私にとっては、本を読むという行為が、いつの間にか

「書く」という行為に繋がった。このような状況を振り返ると「本」による「私」への影響は絶大であった。

私が論文を書き始める年齢が遅かったことが、他のジャンルの本を読むという意識をさらに遠ざけることになった。およそ10年間は、専門書と論文を読むことに明け暮れてしまった。そのつけは、おそらく今、表面化してきているのかもしれない。何事も偏りすぎると弊害が出る可能性がある。まだまだ、つい専門書に手が伸びてしまうが、心の栄養が足りていない自分を少しでも育てていくことができるよう、様々なジャンルの本に手を伸ばしたいと思う。少しずつ、子どもの頃に読まなかった小説なども読んでもいいか、と思えるような心のゆとりを持ちたい。アインシュタインの「感動がないのは、生きていないと同じこと」という言葉を忘れずに。



本に関わる思い出

幼児教育学科 専任講師 吉澤 俊

私は本が大好きです。幼少期から好きだったのですが、現在は毎週、地域の図書館に行きますし、神田神保町の古本まつりも必ず行きます。家には少なくとも二千冊を超える美術系の図録・資料があるはず。本学の図書館はそんな私にとって「宝物館」ともいべき夢の場所です。貴重な資料も多く「まさかここには無いだろう」と考えていた資料が「あった!」、古書店でも見つからなかった本が「これもあった!」ということが何度かありました。

こんな素晴らしい図書館を自由に使える学生の皆さんは幸せだなあと思います。

最初から図書館の宣伝のようになってしまいました。私が本好きになった理由にはちょっと苦い思い出があります。「皆さんには私にならないでほしい」という願いを込めて、恥ずかしいのですがその苦い思い出を書いてみましょう。

私は絵を描く人、「画家」あるいは「アーティスト」の端くれです。「先生」という仕事が好きで人に教えることに生きがいを感じていましたが、一方で「アーティスト」として有名になりたいとか絵を認められたいといった「夢」も持っていました(もちろん今もあります)。

そんなある日、ある有名な美術評論家が私の展覧会を観に来てくれたのです。そして時間をとって話を聞いて下さるということでした。

正直、またとないチャンスです。私は自信をもって作品を紹介し、緊張しながらソファでゆっくりと話をすることができました。

ところが・・・、その評論家の方が当たり前のようにする質問や感想の内容が私にはよくわからなかったのです。つまり、理解できて当然な「アート」の言語が私の頭の中にはなかったのです。

当時、自分なりに美術については学んでいたし展覧会は誰よりも見ていたと自負していました。第一、絵は描くもので文章とは相いれないものださえ思っていたのです。

しかし、実は絵は描くだけではなく理論が必要であ

るし、私のそれまでの学びは全く浅かったということは理解できました。チャンスだと浮かれていた自分が本当に情けなく、親切な評論家にお礼を言うと、情けなさで力が抜けていったのを覚えています。

何とかしなければという思いで大学図書館に行き、手にしたのが「西村清和著『現代アートの哲学』(産業図書1995)」でした。大学での美学の教科書として書かれたであろう本書は当時の私には難解でした。言葉はわかっていても示されている概念が殆ど理解できなかったのです。

いつかこの本の内容が理解できるようになると願ひ、次の日から毎晩本を読み続けました。

どれも最初はわからなかったのですが、とにかく読みつづけました。そうすると私の頭の中で内容のつながる箇所が出てくるのです。それまで霧に包まれていた場所が急に晴れていくような、本を読めば読み進めるほど光が当たるように「わかる」瞬間が出てくるということを経験し、「わかることって楽しい」という子どものような喜びが次第に多くなってきました。

気がつけば、本にどっぷりとはまってしまいました。最初に出会った『現代アートの哲学』は結局二冊買い求め、一冊は美術を志す後輩達に何度も貸しています。

この本の内容を理解できるようになるという願いはクリアしました。なぜあんなに難しく感じたのか、すごくわかりやすく丁寧に書かれていると「今は」思います。

しかし、あの美術評論家とはもう会えないのです。もっと早くもっときちんと学んでおけばと今も苦い思いを引きずっています。一方、あの機会があったことに感謝もしています。

上田周辺は美術芸術に関わる極めて重要な場所です。山本鼎や無言館に関わる本はぜひ皆さんにも読んでほしいですし、リトグラフに革命をおこした森仁志さんという素晴らしい芸術家についてももっと知ってほしいと思います。

これからも皆さんが本と新たな出会いをすることを願っています。



私の好きな文豪たちの逸話

幼児教育学科1年 金子 リサ



この世には、数々の作品を生み出してきた文豪と呼ばれる人たちがいます。私は、作品だけではなく、彼らのエピソードを知ること、より作品を楽しむことが出来るのではないかと思います。私は、よく祖母から文学作品を勧められていましたが、内容は難しいし、文字は多いし、正直苦手でした。ですが、文豪のエピソードを偶々読んでからは、文豪の作品にも興味を持つていくようになりました。文豪という言葉からは想像がつかない、お茶目で面白い、そして少し情ないエピソードを幾つか紹介したいと思います。

『舞姫』で有名な森鷗外は、果実や野菜を生では食さないほどの潔癖症でした。彼は大学時代に細菌の研究をしていて、風呂場にどれほどの細菌がいるかを知り、風呂に入れなくなったという少し残念な人です。

「汚れつちまつた悲しみに……」（『山羊の歌』）を書いた詩人、中原中也は酒乱で、酔うと太宰治（『人間失格』）の家に真夜中にも関わらず訪れた挙句、嫌がらせ（大声で「バーカ」と叫ぶなど子どもっぽいものですが）をし、太宰も怒るところか、布団を被って怯えて泣

いていたそうです。そんな太宰は、芥川賞が欲しくて、選考委員の一人に私生活を指摘された際、脅迫じみた手紙を送り付けた話は有名ですが、彼は親友の檀一雄（『リツ子 その愛』）と「どんな心中自殺がかっこいいか」という話をして、檀が「池で溺死」と言うと、太宰は「寒いからやだ。やっぱガスじゃない?」と答え、「よしガスだ〜!」と、ガス栓を全開にして二人で並んで寝て、途中で正気に返った檀が怖くなり逃げ帰ってしまい、太宰は放置されてしまったそうです。

また、『墮落論』で有名な坂口安吾は、檀一雄の家にいる際、睡眠薬を大量に飲んだ挙句、カレーライスで100人分頼むという無謀な企てをした、などなど…。

このように文豪と呼ばれる人達はどこか変わっていて、面白い話が沢山あり、こうしたエピソードは、彼らの小説の中にも多く転がっています。小説が苦手という方でも、漫画になっている作品も多くありますから、本を読むのではなく宝探しのような感覚で一度手に取ってみてください。きっと面白い作品に出会えると思います。

幼児教育学科2年 高橋 ひかる



映像で見える分、確かに想像しやすいのではないのでしょうか。しかし、ゲームには動作が伴います。自身がコントロールしなければ主人公は動かず、ストーリーも進まないものがほとんどです。その点、本なら簡単です。ページをめくるだけで物語は進み、そして自分でコントロールしない分、予想外の行動を取ってあなたを驚かせてくれるかもしれません。現実に戻るのは本を閉じるだけで済み、そして本を開けばまた直ぐに旅ができます。とても便利な魔法の道具だと思いませんか？

ここまで私の本の楽しみ方を紹介しましたが、その楽しみ方は人それぞれです。本とはこう読むべきだという決まりはありませんし、国語のテストのように筆者の想いを読み解いても、登場人物が発した言葉の真意を理解しようとしても、その正解は分かりません。答えのない、とても自由な世界です。そんな世界の楽しみ方を、今後保育者として、関わる子どもたちと共有していきたいですし、子どもからも新たな楽しみ方を学べる保育者になりたいと思います。



読書の楽しみ

総合文化学科1年 立川 京佳



ります。本は私を未知の分野と引き合わせ、新たな世界を広げるきっかけを与えてくれるものです。

なにより、本を読むことは能動的な行為です。対して、テレビなどで映像を見ることは受動的な行為であり、画面を眺めてさえいれば展開が進みます。漫画にしても基本は絵で構成されているため、描写を瞬時に理解してしまえます。本は文の意味を正しく捉え、常に頭の中でイメージを膨らませながら読む必要があるため、読解力や想像力の発達が期待できます。自分から文に触れようとするからこそ、楽しみが得られるのです。

図書館は、自分の気の赴くままに歩き回りながら、一冊一冊の本が持つ個性の違いを楽しむことができる場所です。実際に本を手にとると感じる確かな年月の重みは、何にも代えがたい価値があります。年齢が上がるにつれて他のことに充てる時間は増えましたが、自分に有益な情報を求めて図書館へ行く機会も増えました。今や図書館は様々な利用方法を見いだすことが可能です。今後も知的好奇心を持ち、本と共に豊かな人生を歩みたいのです。



読書歴

総合文化学科2年 高橋 遥月



私が初めて本に触れたのは、家族の読み聞かせです。家族の読み聞かせとは、休日に妹と図書館で借りてきた本を寝る前に読んでもらったり、あげたりするというものです。これは、妹が小学生になるまで続きました。

次に本に触れたのは、中学生の時です。吹奏楽部に入部した私は、テナーサクソを担当することになりました。しかし、この楽器には同じ楽器を担当する先輩がいなかったため、吹き方を調べるために図書館を利用していました。そこで、『ウィンディ・ガール』（田中啓文著 光文社文庫）という本に出会いました。言いたいことは言う、やりたいことは絶対に実行するという恐らく私と正反対な性格の主人公に、憧れともし自分だったらどうするかを想像し、自分について考えるきっかけになりました。また、この本を読んだ後から今まで手に取りがちだったファンタジックな話より、現実味のある話を好み、登場人物の考え方などを考えるようになりました。この習慣のおかげで少し視野が広がった気がしています。

最後に本に触れているのは現在です。高校生の時は、

本を読む時間が取れなかったため読書から疎遠な生活を送っていました。しかし、進学を決めた時何を勉強したいか考えた結果、図書館と本が好きだったことを思い出して司書の勉強をしてみたいと思い短大に入学しました。すると、司書の勉強を通して昔読んだ本の話ができる人々と出会うことができました。当時は会話が苦手な誰かと感想を共有することができなかったので、当時を振り返りながら昔の本の話ができたことはとても楽しく、苦手な会話を少し改善することができました。さらに、司書の勉強を通して本が気づかないうちに私に良い影響を与えてくれたことに気づき、私を本好きに育ててくれた家族に感謝したいと思うようになりました。

今のところ私は司書の道に進む予定はありませんが、本に導かれてきた経験や人との出会いは無駄ではないと思いますし、無駄にしたくないので、これからも読書が続けつつ機会があれば誰かに本の良さを伝えられたらいいなと思っています。

上田女子短期大学教員が学生にすすめる本

Vol. 5



幼児教育学科 専任講師 堤 裕美

My Recommended Books



①私の読書の中から
『未来のだるまちゃんへ』
かこさとし著 文藝春秋

726.5
Ka 27

絵本に込められたかこさんの思いを知って絵本を手にとると、大人になった今でも絵本からたくさんのお話を学び、純粋な気持ちで子どもの姿や日常の面白さに気づくことができます。

茨木のりこ詩集 『落ちこぼれ』
茨木のりこ著 理論社

911.56
I 11

戦前、戦後の時代に青春時代を生きた女性の強くて凛とした生き方に、今の私が抱える日常の少々の悩みや不安に対する向き合い方が変わってきます。

②これは読んでおこう -
教員・研究者の立場から
『バカの壁』
養老孟司著 新潮社

304
Y 84

知った気になってしまうことが何て多いのだろうと、そして、本当にわかる、理解するためには、体を通すことが大切であるのだと頷かされます。

『死を招いた保育』
猪熊弘子著 ひとなる書房

376.14
I 56

目指すべき保育を考える際に、一度は目を通しておきたい本です。



総合文化学科 専任講師 斎藤直人

My Recommended Books



①私の読書の中から
『ぼくたちが選べなかったことを、
選びなおすために。』
幡野広志著 ポプラ社

916
H 42

写真家・狩猟家である幡野氏は、多発性骨髄腫(癌)と診断された。その際に余命3年と宣告される。彼は、「生きにくさ」を感じていた。おそらく、癌になる前からだと推察する。それを乗り越えるための「選択」は、私たちに気づきを与える。そして彼の考える「家族」の再定義は必読だ。

②これは読んでおこう -
教員・研究者の立場から
『闘病記文庫入門』
石井志保著 日本図書館協会

010
N 7
-17

副題に「医療情報資源としての闘病記の提供方法」とあるとおり、公共図書館で行われ始めている闘病記文庫設置の実践方法と文献リストが記されている。この実践は、図書館サービスの在り方についても一石を投じたものだ。司書課程の学生は必読の一冊。

③本学刊行物の中から
本誌 上田女子短期大学附属図書館報
「みすず」のバックナンバー全て

先生方の図書や、図書館にまつわるエピソード、学生にすすめる本は必見。ぜひ、チェックを。



2019年 本学教員の最新刊著作 (今年発行の単独著書・共著書・分担執筆書) 著者の五十音順

・小池由美子 先生
「〈座談会〉高校改革をどうとらえ、対抗するか」(雑誌『教育 11月号』掲載)
かもがわ出版 2019年11月発行(共著)

・高田正哉 先生
『明日の地域をみつける：信州大学地域戦略プロフェッショナル・ゼミ4年間の軌跡』
第一企画 2019年2月発行(分担執筆)

A377.2
A 93

図書館講座

附属図書館では、地域の方々との交流や地域への貢献を目的に、平成28年度から年2回の講座を行っています。ここでは、平成30年度の図書館講座の様子をお伝えします。

第1回講座 2019年1月27日(日)

「新潟市の学校図書館と学校図書館活用推進校事業」

講師：新潟市立大通小学校 校長 上澤田誠先生

新潟市では、全ての市立小中学校において学校図書館を活用した教育を実施する「学校図書館活用推進校事業」に取り組んでいます。

学校図書館を活用した教育の実践のために、校長先生のリーダーシップのもと、司書教諭や学校司書、先生方がどのように連携をとっているのか、また、学校図書館と公共図書館の連携について、事例をもとにお話いただきました。



第2回講座 2019年2月3日(日)

「絵文字を習って壁掛けや置物を作ろう」

講師：上田女子短期大学総合文化学科教授 宮田暉朗先生

象形文字の練習のあと、自分で形作った紙粘土や石、色紙等思い思いの素材に、それぞれ好きな象形文字を書いて、壁飾りや置物を制作しました。ユニークで素敵な作品が出来上がりました。小さいお子さんから大人の方まで、幅広い年代の方にお楽しみいただき、賑やかな講座となりました。



令和元年度 図書館講座のお知らせ

ご参加
ください

① 2020年1月26日(日) 13:30 ~ 14:30
「学校図書館のイベント紹介
——読書センター機能を中心に——」

講師：総合文化学科専任講師 斎藤直人先生
場所：上田女子短期大学附属図書館

◎詳細は後日、附属図書館ホームページにてお知らせいたします。

② 2020年2月9日(日) 13:00 ~ 16:00
「抽象画に挑戦!!

～うまいへたなんて関係ない!
自分の感性を信じて作品を作ろう～」

講師：幼児教育学科専任講師 吉澤俊先生
場所：上田女子短期大学25番教室

図書館企画展

平成29年度より、学びの成果の発表の場として1階ブラウジングコーナーで企画開催しています。今年度の展示を紹介します。

5月～9月



「時の重なり」

幼児教育学科専任講師 吉澤俊先生

抽象画展

吉澤先生がアクリルや銅の箔などを使って制作された抽象画の作品を展示しました。大きなものは高さ1.2mほどもあり、その迫力に圧倒されました。



図 書 館 耐 震 補 強 工 事

2019年10月7日～2020年1月末(予定)

10月7日より図書館を閉館し、1階の書庫(集密書架)、AVルーム、ブラウジングルームと2階事務室、閲覧室の一部を対象に、耐震補強工事が始まりました。

7月末より片付けを始め、10月7日から図書館事務室を19番研究室に移動しました。

12月中旬より開館の予定ですが、工事は1月末までの予定です。利用者の皆様には引き続きご迷惑をお掛けいたします。

工事の様子

図書館入口



書庫・AVルーム・ブラウジングルーム



耐震補強を施すために天井が剥がされたり壁が抜かれたりしています。

エントランスの柱



2階閲覧室



みすず

第46号

上田女子短期大学附属図書館報
2019.12 発行

編集：上田女子短期大学図書館・紀要委員会
発行：上田女子短期大学附属図書館

〒386-1214 長野県上田市下之郷乙620
Tel：0268-38-6019 Fax：0268-38-6019
E-mail：lib@uedawjc.ac.jp

編集後記

a postscript by the editor

図書館からの発信 2019

「みすず」第46号をお届けします。

ご寄稿いただいた方々、そして、お読みくださる皆様に心から感謝申し上げます。

台風19号の大雨で、この上田の地も、長野県も、そして日本も、途轍もない大きな痛手を被りました。私達がしなければならない忍耐はまだまだ続きますが、ともかく、先ずは健康に留意して、毎日を大切に生きていきたいです。

図書館は、耐震補強工事のためご不便をお掛けしてきましたが、頑丈な図書館となつて、これまで以上にご利用いただける知的空間になっていきます。図書館も書物も、人間が使うことで、その価値が高められ本当の魅力を発揮していきます。

附属図書館長 長田真紀